

公共施設経営に関する 取り組み事例

(鳥取市で講演した自治体)

事例1(浜松市)

民間貸付

◆廃校

- ・市民協働センターへの転用、民間事業者による地域活動拠点や森林組合の事務所兼作業所、地域集会場などに貸付

★地域で簡易郵便局・診療所を誘致★



地元へ無償貸付⇒自治会館、郵便局、診療所、体育館での展示イベント



事例2(浜松市)

機能集約(施設統合)と民間貸付

- ・金融機関
- ・郵便局
- ・国出先機関
- ・民間保険会社等
- ・NPO団体

(貸付)



【佐久間協働センター】
※旧佐久間町役場・ホール



☆貸付により
890万円/年の収入



【さくま郷土遺産保存館:統合・廃止】
解体・借地の返還



【佐久間就業改善センター:統合・管変】

事例3(秦野市)

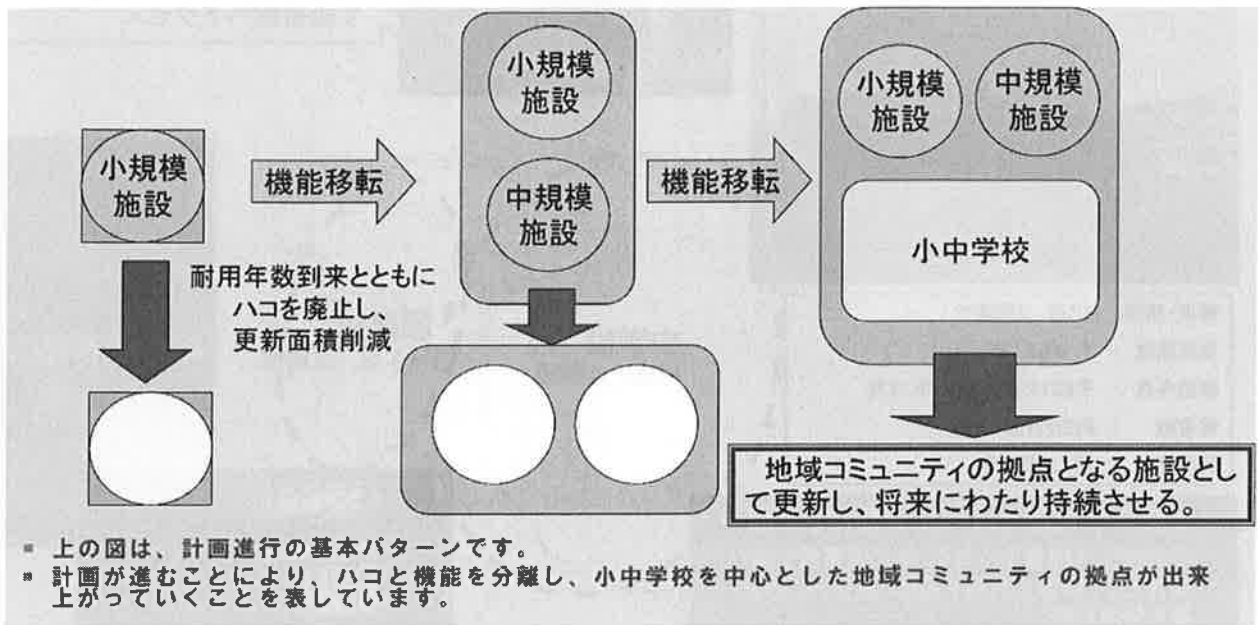
公民連携による公共施設マネジメント

- 秦野市役所の敷地内には、コンビニが建っています。(独立店舗が敷地内に建っているのは、全国で唯一(現在愛媛県新居浜市が挑戦中)。24時間営業を担保)。建設に当たり、税は投入していない(事業用定期借地で出店者が建設)。総額〇.〇億円の賃料収入は、庁舎の維持補修に充当
- この店では、図書館の図書返却受付、市刊行物や文化会館公演チケットの販売、住民票の受取サービスなどを24時間年中無休で実施
- これも立派な「公民連携(PPP)による公共施設のマネジメント」



事例4(秦野市)

学校を中心とした地域コミュニティ拠点



事例5(さいたま市)

◎泰平小と大砂土デイサービスセンター

学校の活用

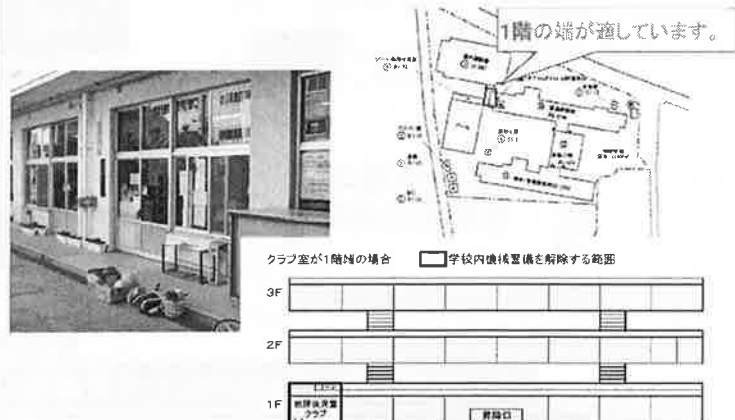
三橋小学校と三橋公民館の複合
(公民館の調理実習室と小学校の家庭科室が連結)



稼働率の低い教室の有効活用



余裕教室を活用した放課後児童クラブ



事例6(佐倉市)

図書館と学校との複合化

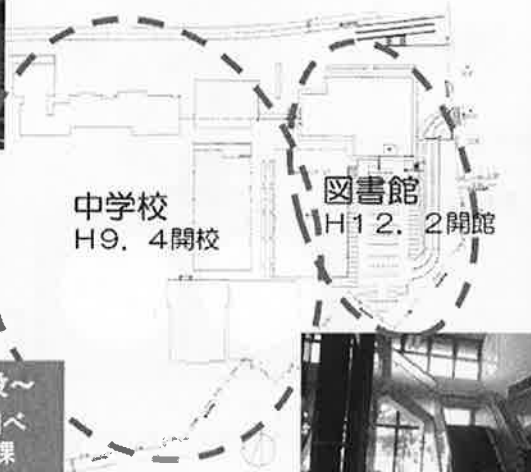
市立図書館の新築工事



構造・規模: RC造 2階建て
 延床面積: 1,462 m²
 建築年月: 平成12年(2000年)2月
 蔵書数: 約20万冊
 貸出者数: 延12万人/年



生徒は、校舎より連絡通路にて図書館へアクセス

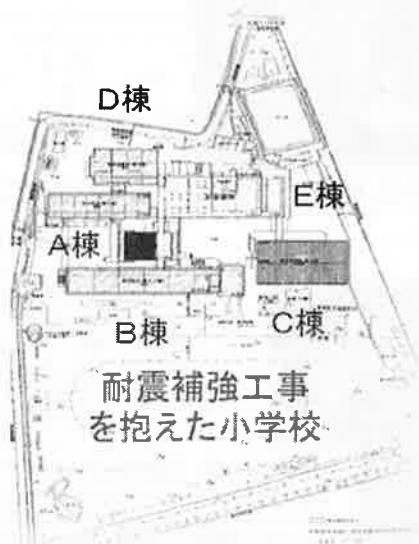


~新設中学校隣地に市立図書館を併設~
 学校内には図書室はなく、市立図書館を調べ学習として授業で利用する他、昼休み、放課後も利用可能。

人口減少を見据えた複合化

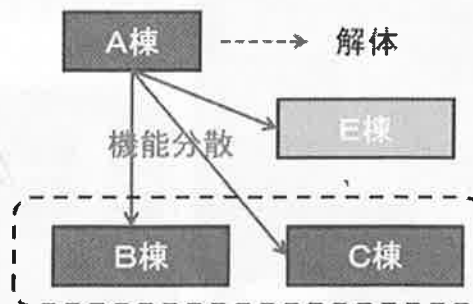
事例7(佐倉市)

耐震化と合わせた統合(集中化)



【与条件】

D・E棟 ⇒ 新耐震校舎
 A・B・C棟 ⇒ 旧耐震校舎
 耐震補強順位 A→C→B
 保有面積-基準面積≒450m²



B・C棟を集中して補強

総量縮減(約450m²) + 予算縮減(約6,000万円)